

びまん性大細胞型B細胞リンパ腫という診断が出た前提で、以下の質問を想定しています。

- ① どのような病気なのか
- ② これから、どのような症状が予想されるか。
- ③ どのような治療を行うのか
- ④ 治療の副作用は
- ⑤ 治るのか
- ⑥ 入院は必要なのか

おおまかな説明を一通りしてくれるものがほしいのか、患者にも分かりやすいかみ砕いた説明を求めているのか。それともおおまかな説明の後に患者の細かい疑問に答えてくれるものがほしいのか。

## びまん性大細胞型B細胞リンパ腫とは (①)

最もよくみられる非ホジキンリンパ腫です。白血球の一種であるリンパ球のうち、Bリンパ球ががん化することで発症します。リンパ節で急速に増殖し、脾臓、肝臓、骨髄やその他の臓器を侵すことも少なくありません。無治療の場合、月単位で病気が進行するアグレッシブリンパ腫ですが、薬物療法の効果が期待できます。

## びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の症状 (①、②)

全身のリンパ節やリンパ系臓器から発生するため、発生した部位により症状は異なります。また、腫瘍の増殖する速さによって症状が現れることもあります。首や腋わきの下、足の付け根など、病変があるリンパ節に腫はれやしこりがあらわれますが、多くの場合、痛みを伴いません。全身症状としては、「盗汗とうかん（衣服が濡れるくらいの寝汗）」「体重減少」「原因不明の発熱」など、B症状と呼ばれる症状が特徴です。

腫れやしこりが大きくなり、尿管（腎臓から膀胱への尿の通り道）や静脈、脊髄せきずいなどの臓器が圧迫されると、「水腎症（尿管がせき止められて腎臓に尿がたまり、腎臓が広がった状態）」「むくみ」「麻痺」などの症状があらわれ、緊急で治療が必要な場合もあります。

以下の症状が表れます。

- 頸部、わきの下、鼠径部、胃のリンパ節の腫れ。
- 原因不明の発熱。
- ひどい寝汗。
- ひどい疲労感。
- 原因不明の体重減少。
- 皮膚の発疹や皮膚のかゆみ。
- 胸部、腹部、骨などの原因不明の痛み。

### 治療法（③、⑤、⑥）

分子標的薬と細胞障害性抗がん薬などの複数の薬を組み合わせで行う薬物療法が中心です。治療開始時の最初の1コースは（1サイクル）は入院して行うことが多いですが、その後は通院となることが多いです。薬物療法を予定した回数行い、完全奏効が得られた場合は治療を終了して、経過観察を行います。一部の血液やリンパのがんなどでは薬物療法のみで治癒を目指すことができますが、多くのがんにおいては、薬物療法のみで治癒を目指すことは困難です。そのため、手術（外科治療）や放射線治療と併用することがあります。

薬物療法を行った後、再発があった場合、造血幹細胞移植を行うことがあります。

このほか、免疫療法の1つでもあるCAR-T細胞療法が行われる場合もあります。

### 参考

[基礎知識 - がんプラス \(qlife.jp\)](http://qlife.jp)

[がん情報サイト | がん情報各論：\[患者さん向け\] \(tri-kobe.org\)](http://tri-kobe.org)

[放射線治療：\[国立がん研究センター がん情報サービス 一般の方へ\] \(ganjoho.jp\)](http://ganjoho.jp)

[ホジキンリンパ腫の化学療法とは？ | 小野薬品 がん情報 一般向け \(ono-oncology.jp\)](http://ono-oncology.jp)

[びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫とは | ポライビーによる治療で初めてびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の治療を受ける患者さんへ 中外製薬 \(polivy.jp\)](http://polivy.jp)